

広島県臥竜山麓におけるミヤマホオジロの生息記録

上野吉雄^{1)*}・伊東進也²⁾

¹⁾ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・²⁾ 広島市南区堀越

Records of Yellow-throated Bunting *Emberiza elegans elegans* at the Foot of Mt. Garyu, Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO・Sinnya ITOH

はじめに

ミヤマホオジロ *Emberiza elegans elegans* は、ウスリー川流域、中国東北部、朝鮮半島などで繁殖し、西日本に冬鳥として渡来し、越冬する。日本国内では、長崎県対馬市と広島県で繁殖が確認されている（鴨川・山口 1976, 上野ほか 1995, 日本鳥学会 2012）。近年では、島根県隠岐諸島でも繁殖が確認されている（市橋ほか 2016）。

広島県では、ミヤマホオジロの県内における繁殖地が、臥竜山周辺に限られていること、繁殖個体群が孤立していることから、レッドデータブックひろしま 2011 において、要注意種に選定されている（上野 2012）。

本報告は、広島県レッドデータブックの要注意種であるミヤマホオジロの、臥竜山麓における生息状況について報告するものである。

方法

臥竜山麓のミヤマホオジロについて、繁殖期である 2020 年 6 月に、生息状況の調査を実施した。調査は、臥竜山麓八幡原公園一帯で、2020 年 6 月 8 日から 6 月 22 日にかけて 4 日間行った。ミヤマホオジロのさえずりを確認すると、双眼鏡（8 倍程度）、望遠鏡（40 倍程度）を用いて観察を行い、行動圏の推定に努めた。本調査は、レッドデータブックひろしま改訂のために設置された専門部会によるレッドリスト選定候補種の現地調査として実施した。

結果および考察

2020 年 6 月の調査で確認された臥竜山麓におけるミヤマホオジロの繁殖期の生息状況について図 1 に示す。臥竜山麓において 5 地点でミヤマホオジロの生息を確認した。6 月 8 日に地点 2, 地点 3, 地点 4 において、6 月 16 日に、地点 1 と地点 2 においてさえずりを確認した。6 月 17 日に、地点 5 においてミヤマホオジロの幼鳥を確認した（図版 1-C）。6 月 22 日に地点 4 においてさえずりを確認した（図版 1-B）。生息していた環境は草原または湿原の林縁部であった（図版 1-A）。

臥竜山では、1993 年からミヤマホオジロの繁殖が確認されている（上野ほか 1995）。本調査によって、1993 年以降から毎年、28 年に渡って臥竜山周辺で繁殖個体群が維持されていることが明らかになった。

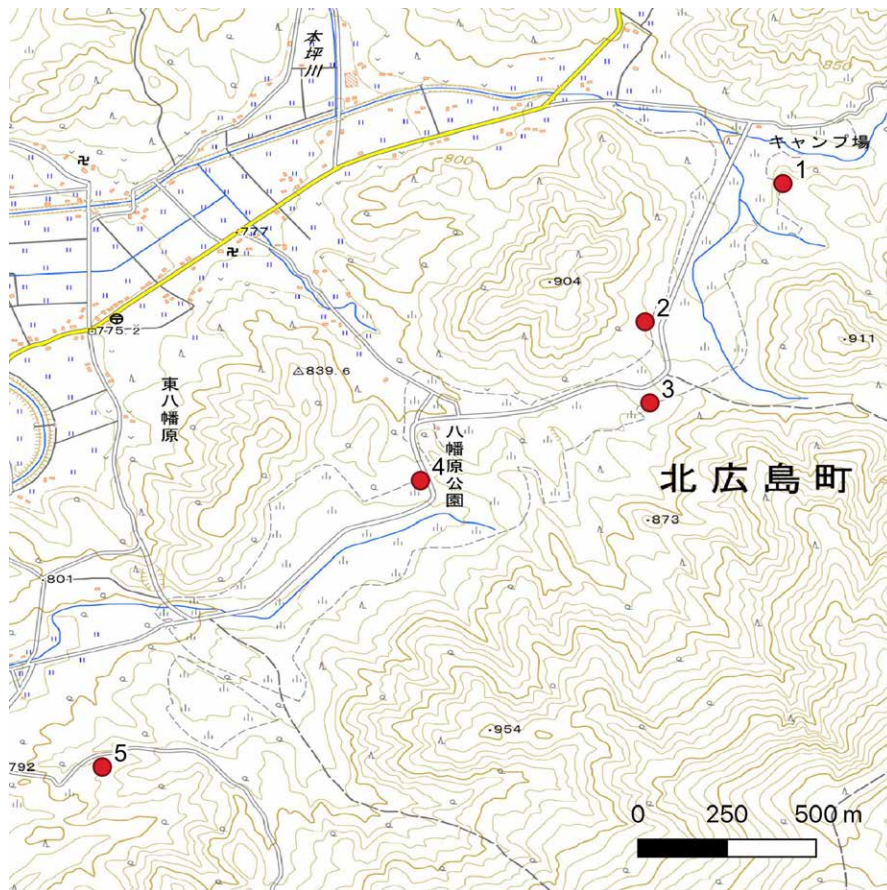


図1 臥竜山麓におけるミヤマホオジロの確認地点 (2020年6月)

謝辞

本調査を行うにあたり、広島県レッドデータブック見直しのための調査の機会を与えていただいた広島県環境県民局環境部自然環境課の方々はこの場を借りて感謝の意を表す。

引用文献

- 市橋 直規・深谷 治・森 茂晃・江崎 逸郎・岡田 美耶 (2016) 隠岐諸島におけるミヤマホオジロ *Emberiza elegans* の繁殖. ホシザキグリーン財団研究報告, 19: 195-199
- 鴨川 誠・山口 鉄男 (1976) 対馬の生物. 長崎生物学会, 長崎
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田
- 上野 吉雄・杉島 洋・保井 浩 (1995) 西中国山地におけるミヤマホオジロ *Emberiza elegans* の本州初の繁殖. 日本鳥学会誌, 44: 229-230
- 上野 吉雄 (2012) ミヤマホオジロ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) - レッドデータブックひろしま 2011 - : 84. 広島県



A : ミヤマホオジロの生息環境 2020年6月22日
B : さえずるミヤマホオジロのオス 2020年6月22日
C : ミヤマホオジロの幼鳥 2020年6月17日